

小学校6年生児童の保護者の皆様

苫小牧市立ウトナイ小学校長 瀬川 恵

平成31年度全国学力・学習状況調査の調査結果について

残暑の候、保護者の皆様におかれましては、ますます御清栄のことと拝察申し上げます。

また、日頃から本校の教育活動に対しまして、御理解と御協力をいただき感謝申し上げます。

さて、本年4月18日（木）に実施しました全国学力・学習状況調査の結果が本年7月に北海道教育委員会から公表され、苫小牧市でも8月に公表されました。

本調査は、学習指導要領の定着状況の把握、すなわち児童が学習内容をどの程度理解しているかを把握することとともに、調査結果の分析から児童への指導の充実や学習状況の改善等を図ることを目的としています。苫小牧市は、市全体の平均正答数及び平均正答率を公表することとしておりますが、各学校の平均正答数及び平均正答率の公表については、本調査の目的と整合が図られないこと、学校の序列化を回避することが困難であることなどの理由から、行わないとの考えが示されました。

これを踏まえて、本校の結果と考察をまとめましたので、次のとおりお知らせします。

記

1 検査の概要

(1) 実施日

平成31年4月18日（木）

(2) 調査対象

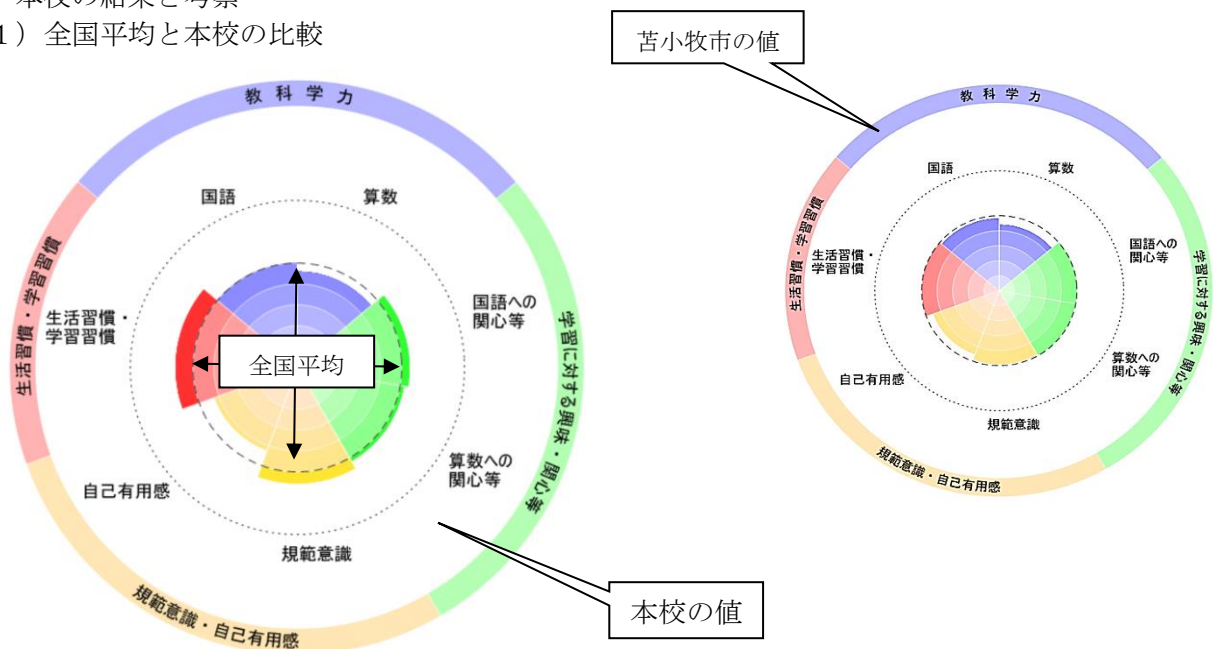
小学校第6学年（市内全小学校で実施）

(3) 検査内容等

- ① 教科に関する調査は、国語、算数の2教科が出題されました。
- ② 生活習慣、学習環境等に関する児童質問紙調査が実施されました。
- ③ 学校に対して、指導方法や教育条件の整備等に関する質問紙調査が実施されました。

2 本校の結果と考察

(1) 全国平均と本校の比較



(2) 国語科

- 国語においては、平均正答率が全国平均を上回っている。
- 国語の正答数の分布では、全国平均に比べ、中位層が薄く、上位層、下位層が厚い傾向が見られる。
- 「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」「文と文との意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書く」「話し手の意図を捉えながら聞き。自分の考えをまとめる」設問において、平均正答率が全国平均を上回っている。
- 「図表やグラフなどを用いた目的を捉える」「目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらか読む」設問において、平均正答率が全国平均を下回っている。

(3) 算数科

- 算数においては、平均正答率が全国平均を下回っている。
- 算数の正答数の分布では、全国平均に比べ、上位層が薄く、中位層、下位層が厚い傾向が見られる。
- 「図形の性質や構成要素に着目し、ほかの図形を構成する」「示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述する」設問において、平均正答率が全国平均を上回っている。
- 「示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述する」「何倍の関係をグラフから読み取る」「資料の特徴や傾向を関連づけて、一人当たりの水の量の増減を判断し、その理由を記述する」「計算の仕方を解釈し適用する」「複数の数量から必要な数量を選び、立式する」設問において、平均正答率が全国平均を下回っている。

(4) 児童質問紙

学校生活

- 「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う」「国語・算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思う」「国語の授業で自分の考えを話したり聞いたりするとき、うまく伝わるように理由を示したりするなど、話や文章の組立てを工夫している」と回答した児童が全国平均を上回っている。
- 「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思う」「算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思う」と回答した児童が全国平均を下回っている。

家庭生活

- 「毎日、同じくらいの時刻に寝ている、起きている」「家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話している」「学校のきまりを守っている」「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思っている」と回答した児童が全国平均を上回っている。
- 「自分には、よいところがあると思う」「今住んでいる地域の行事に参加している」と回答した児童が全国平均を下回っている。

3 学校の今後の取組について

今年度は、国語が、全国の平均正答率を上回り、算数は、全国の正答率にやや届かなかった。国語に関しては、本校の学力向上に向けての取組や授業改善(朝読書、学習サポート、交流を通して学ぶ授業実践など)の成果が現れていると思われる。算数科については、学力の確実な定着に向けて朝学習や宿題、単元や学期のまとめの学習などを活用し、繰り返し練習問題に取り組んでいきたい。

また、児童質問紙から見えた自己有用感や自己評価を高めることや地域行事への参加等については、家庭と連携しながら進めていきたい。